

現在赤井川村で活動する地域おこし協力隊は3名です。全員が赤井川村歴半年以上となった今、それぞれの活動・想いを伝えるべく「地域おこし協力隊新聞」を作りました！初回となる今回のインタビュー内容はこちら↓

① 地域おこし協力隊になろうと思っただきっかけ

② 実際の村での生活

③ 道駅における地域おこし協力隊員としての活動について

「道の駅館長 村上隊員」

① 今年4月の道の駅オープンに伴い運営スタッフの募集があったこと、以前から北海道らしい気候、風土、景観、食べ物等が自分と合っていたことが応募のきっかけです。

② 道の駅では朝早くから夜遅くまで勤務しており、「プライベート面では地域住民と接する機会が少ないため、地域活動が出来ず申し訳なく思っておりますが、村の人が道の駅へ来ていただく機会も多く、皆様のあたたかさに触れております。

③ スタート一年目でもあり4月からの集客、売り上げ共に順調でしたが、2年目を迎えるにあたり危機感を持っており、もっと団体客の集客を中心に道の駅として営業強化が必要と感じております。

「道の駅直売所担当 二明隊員」

① 自然景観に恵まれた北海道に以前から憧れがあり、自信も食の産業に携わっていたという希望を持っていただくことがきっかけです。

② 一期一会を大切に、共生、協働で地域の生活を楽しんでいます。

早いもので村での生活も5ヶ月以上になりましたが、仕事終わりに道の駅から見る夕焼けの景色など、毎回その美しさに感動し、思わずそのまま村内をドライブしてしまいます。これから雪が降る季節を迎えますが、道内でも指折りの豪雪地でもあり水点下にもなる赤井川村の冬はとても心配です。乗り越えてい



たらと思っております。ドライブするわけにはいきませんが、雪化粧に染まる村の景色もまた美しいのだからという楽しみがあります。

③ 道の駅あかいがわの農産物直売所のスタッフとして接客、販売を中心に活動しておりますが、何より一番強く感じるのはカトルズ盆地の豊かな土壌と気候です。たおしくパワーのある農産物たちの魅力です。思わず接客にも熱が入ってしま

います。そしてお買い上げいただいたお客様がまた次にもご来店下さい「あなたに教えてくれた野菜、おいしかったわよ」などと言っていたけると嬉しさが込められています。そして日々搬入していただける農家様たちのふれあいの中で

気付いたのは、農産物の中にそれぞれの農家様らしさがあることです。そこに気が付いた時に、より一層仕事の楽しみが増え赤井川の農産物の魅力を一人でも多くのお客様に伝えたいと心から感じるようになりました。

① 地元である神奈川にいた頃、仕事にもプライベートにも息苦しさを感じ、海外で生活を始めました。しばらく日本を離れたことで日本の魅力を理解し自分が生まれ育った国の将来の為にやる仕事がしたいと思うようになったこと

がきっかけで「地域おこし協力隊」の存在を知り、どうせ行くなら地元から遠くへ人が少ない場所、海育ちの私にとって山、豪雪という不安要素だらけの慣れない環境に行ってみようという冒險心から赤井川村を選びました。

② 赤井川村は緑もゆかりもない場所だったので、誰かから名前を呼ばれただけで幸せな気持ちになります。四季の移り変わりの早さや景色の変化、これまで遠い存在だった農業を間近に見られること、今まで聞いたことがない北海道弁

が聞けた時など、毎日新しい発見がありとても楽しいです。

③ ベーカリー担当として村の方が丹精込めて育てたもの、作ったものをパンの材料として使わせてもらっています。一年目だった今年は何もかもが初めてだったので「失敗して怒られてもいいや」という気持ちで何でも挑戦しました。

二年目に突入しても初心を忘れず、もっといろいろな形で赤井川の魅力を発信していきたいと思っています。

平成二十七年十一月一日